

平成20年度 分野チェックリスト

分野名	自律・教育分野		分野番号	5
分野担当部	教育委員会事務局	関連部	区民生活部	

杉並区政チェックリスト(政策指標)の変化							
番号	指標名	単位	指標値			目標値	
			17年度	18年度	19年度	22	年度末
1	学力調査で設定した目標に達している児童・生徒の割合	%	70.7	70.4		75%以上	
2	ボランティアに参加したことのある区民の割合	%	22.0	23.8	22.0	30.0	
3	不登校児童・生徒数	人	247	277	253	170	
4	いじめや仲間はずれがなく生活していると感じている子どもの割合	%	70.9	70.9	71.3	80.0	
5	区民1人あたりの文化的な生活時間	時間	平日1時間53分 休日2時間16分	平日1時間45分 休日2時間51分	平日1時間53分 休日2時間10分	平日2時間15分 休日3時間00分	

指標の状況、定義は裏面をご覧ください。

杉並区政チェックリスト(政策指標)の変化の状況(分析)	
1	<p>区独自の学力等調査(小学校3年生から中学校3年生)における平均達成率(設定した目標を達成した児童・生徒の割合)を指標値としている。平成19年度は実施方法等の見直しをしたため学力等調査は行わなかった。しかし、東京都の学力調査結果で見ると、小・中学校とも東京都平均を上回り良好な結果がでている。今後も教職員研修や教育研究奨励、学力向上調査委員会の活動等を充実し、教員・学校の指導力向上を図っていく。また、少人数学習の機会充実や教員加配等により、基礎的・基本的な学力の定着に取り組むことにより、平成22年度末の目標値達成を目指す。</p>
2	<p>平成15年度から4年連続で指標値が増加していたが、前年度と比し微減となった。 現在、「杉並区教育ビジョン推進計画」に基づき、保護者・地域住民による学習支援活動や安全防犯活動などの学校を支える活動を担っていただいている学校支援本部、学校運営の当事者として、一定の権限と責任を持って参画する地域運営学校(コミュニティ・スクール)の設置が計画的に進捗している。これらの取組みの拡充により、今後、保護者や地域住民の学校運営への参画がより促進されていくと考えられる。 また、地域活動における中心的な存在である町会・自治会には区の施策遂行に深く関わっていただいていることや、NPO等をはじめとした地域住民や地域の活動組織が主体となった自主的な活動も活性化していることに加え、「ボランティア活動してみたいと思うがしたことはない」と意欲のある区民の割合が48.3%と、ボランティア活動に興味関心がある区民が潜在的に多く見込まれることから、今後、ボランティア活動に参加する区民の増加が期待される。</p>
3	<p>不登校児童・生徒数については、平成17年度、18年度と増加傾向にあったが、平成19年度は前年度より23人減少した。不登校の直接のきっかけは多岐にわたっているが、「無気力など本人に関わる問題」「いじめを除く友人関係をめぐる問題」「親子関係をめぐる問題」が多くを占めており、不登校人数の増加の大きな要因と考えられる。また、不登校解消率(不登校人数に対して、指導によって登校できるようになった人数の割合)は、平成17年度24%から平成18年度は30%まで増えたが、平成19年度においては26%と減少した。平成20年度は、前年度、済美教育センターに設置した「教育SAT」(校長OB、心理士、社会福祉士、専門医などの専門スタッフを加えた、いじめや不登校などの緊急課題を解決する専門チーム)に不登校対策担当の心理士3名とスクールソーシャルワーカー3名を配置し、より手厚い対策を実施している。さらに、平成20年度新規事業である「不登校解消に向けた学校サポート事業」において大学との連携を図り、学校の不登校解消に向けた取組みを支援している。</p>
4	<p>指標値は「学校評価アンケート」の結果から算出しており、平成17年度、平成18年度と横ばいで、平成19年度も微増に止まり、いじめや仲間はずれに対する何らかの不安を抱く児童・生徒が少なからずいる可能性はある。学校教育において、いじめは重要課題であり、学校の相談体制の充実や生徒会活動・学級活動等での指導については、多くの学校で取り組んでいる。平成19年度に設置した「教育SAT」(校長OB、心理士、社会福祉士、専門医などの専門スタッフを加えた、いじめや不登校などの緊急課題を解決する専門チーム)と連携しながら今後も教育相談の機能強化、創意工夫のある教育指導などにより、児童・生徒の不安意識を解消し、「学校が楽しい、充実している」と感じる児童・生徒が増えるよう取り組んでいく。</p>
5	<p>文化的な生活時間は、昨年度平日が微増したものの、平成15年度から増加傾向で推移していた休日の時間が、19年度は大幅に減少した。一方で、杉並公会堂の利用件数・稼働率、日フィル友好提携事業への参加者数も順調に伸びており、文化活動の発表や音楽鑑賞などをとおして、優れた文化芸術に触れる機会が増えていると考えられる。また、体育施設の利用率が97%と高い現状値を示しており、スポーツ活動に取り組んでいる区民も増加傾向であると考えられる。 「歩きながら、元気が文化が生まれる街。すぎなみ」の実現に向け、杉並公会堂、郷土博物館分館のオープンに加え、平成21年5月に予定されている杉並芸術会館(座・高円寺)の開館など、文化・芸術活動の基盤整備は着実に進んでおり、区民に取って魅力的な施設として十分に活用されるよう、より一層のサービス向上に取り組む。区民一人ひとりの文化的な生活時間の向上を図っていく。</p>

チェックリストの状況(参考)

番号	名称	関連データ(他自治体との比較等)
	定義	
1	学力調査で設定した目標に達している児童・生徒の割合	【19年度】 < 問題解決能力等平均正答率 > 調査対象(都内公立小学校5年生、中学校2年生 < 全員 >) 杉並区 東京都 小学校 64.0 小学校 59.8 中学校 60.6 中学校 56.3
	平成19年度は実施方法等の見直しを行ったため未実施 【関連データ】 (都教育庁:平成19年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果 より)	
2	ボランティアに参加したことがある区民の割合	【19年度】 杉並区 東京都(15年度) 22.0% 28.5%
	区民アンケートで、「あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか」に「現在活動している」「以前活動をしていたが現在はしていない」と回答した人の割合 【関連データ】 (杉並区区民意向調査より) (都教育庁:東京の教育に関する都民意識調査 より)	
3	不登校児童・生徒数	不登校児童・生徒(年度に30日以上欠席)の出現率 【19年度】 杉並区 東京都 小学校 0.29% 小学校 0.34% 中学校 3.14% 中学校 3.23%
	年度に30日以上欠席(病気等の欠席を除く)した児童生徒の人数 【関連データ】 (都教育庁:平成19年度における児童・生徒の問題行動等の実態について より)	
4	いじめや仲間はずれがなく生活していると感じている子どもの割合	1校あたりのいじめ認知件数 (いじめについては定義の解釈が多様であり、また認知も主観による部分が大きいため、単純に他自治体との比較は難しい) 【19年度】 杉並区 東京都 小学校 1.82件 小学校 1.49件 中学校 4.61件 中学校 3.20件
	済美教育センターで取りまとめた「学校評価アンケート」による。小・中学校とも「いじめや仲間はずれなどがなく、友達どうし仲良く生活していますか」との問いにおいて肯定的な回答をした児童・生徒数の割合を%で表した。 【関連データ】 (都教育庁:平成19年度における児童・生徒の問題行動等の実態について より)	
5	区民1人あたりの文化的な生活時間	
	区民アンケートで、「あなたが取り組んでいる趣味や習いごと、社会活動はありますか」に、「趣味・娯楽活動」「教養・学習活動」「スポーツ活動」と回答した人の1日にかかるだいたいの時間の平均値(平日・休日別)。 (杉並区区民意向調査 より)	
特記事項		